

# 福島第一原子力発電所の状況

平成 24 年 6 月 14 日  
東京電力株式会社

## < 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (6/14 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉圧力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 2.0 m <sup>3</sup> /h	33.8	107.1 kPa abs	A系:0.00 vol% B系:0.00 vol%
		給水系：約 3.4 m <sup>3</sup> /h			
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 5.3 m <sup>3</sup> /h	47.1	9.50 kPa g	A系:0.18 vol% B系:0.18 vol%
		給水系：約 3.0 m <sup>3</sup> /h			
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 5.0 m <sup>3</sup> /h	53.6	0.25 kPa g	A系:0.18 vol% B系:0.16 vol%
		給水系：約 3.5 m <sup>3</sup> /h			

\*:絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

【1号機】・6/14 原子炉格納容器ガス管理システムの希ガスモニタにて確認したキセノン 135 は、 $1.5 \sim 2.7 \times 10^{-3} \text{Bq/cm}^3$  であり、再臨界判定基準の  $1 \text{Bq/cm}^3$  を超えていないことを確認。

【2号機】・6/14 原子炉格納容器ガス管理システムの気体のサンプリングを実施。分析の結果、キセノン 135 は当該システム入口でキセノン 135 が検出限界値 ( $1.0 \times 10^{-1} \text{Bq/cm}^3$ ) 未満であり、再臨界判定基準である  $1 \text{Bq/cm}^3$  を超えていないことを確認。また、希ガスモニタにて確認したキセノン 135 は、検出限界値 ( $2.3 \sim 2.4 \times 10^{-1} \text{Bq/cm}^3$ ) 未満であり、再臨界判定基準の  $1 \text{Bq/cm}^3$  を超えていないことを確認。

【3号機】・6/14 原子炉格納容器ガス管理システムの希ガスモニタにて確認したキセノン 135 は、検出限界値 ( $3.4 \sim 3.5 \times 10^{-1} \text{Bq/cm}^3$ ) 未満であり、再臨界判定基準である  $1 \text{Bq/cm}^3$  を超えていないことを確認。

## < 2. 使用済燃料プールの状況 > (6/14 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	22.0
2号機	循環冷却システム	運転中	23.5
3号機	循環冷却システム	運転中	22.4
4号機	循環冷却システム	運転中	30

\*各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルへヒドラジンの注入を適宜実施。

## < 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元 →	移送先	移送状況
2号機	2号機タービン建屋	集中廃棄物処理施設 [ 雑固体廃棄物減容処理建屋 (高温焼却炉建屋) ]	5/27 14:34 ~ 6/14 14:16 移送実施
3号機	3号機タービン建屋	集中廃棄物処理施設 [ 雑固体廃棄物減容処理建屋 (高温焼却炉建屋) ]	6/10 8:26 ~ 移送実施中
6号機	6号機タービン建屋	仮設タンク	6/14 10:00 ~ 16:00 移送実施

#### <4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (6/14 7:00 時点)

設備	セシウム吸着装置	第二セシウム吸着装置(サリー)	除染装置	淡水化装置(逆浸透膜)	淡水化装置(蒸発濃縮)
運転状況	運転中	運転中*	停止中	水バランスをみて断続運転	水バランスをみて断続運転

\*フィルタの洗浄を適宜実施。

- H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。
- H24/6/14 水処理設備の除染装置については、5/21より単独循環運転を実施しているが、本日6:58頃に「流量バランス異常」の警報が発生し、その後、協力企業作業員が監視カメラを注視していたところ、監視カメラの映像から漏えいが発生している疑いがあると判断したことから、同日8:14単独循環運転を停止。現場を確認したところ、12:20堰内の床面に水が広がっていることを確認。なお、漏えいは停止しており、漏れた水の堰外への流出はないことを確認(漏えい量は約3m<sup>3</sup>と推定)。また、漏れた水の核種分析結果は、ガンマ核種総濃度:4.8×10<sup>2</sup>Bq/cm<sup>3</sup>、Cs-134:1.8×10<sup>2</sup>Bq/cm<sup>3</sup>、Cs-137:2.6×10<sup>2</sup>Bq/cm<sup>3</sup>であり、除染装置の凝集沈殿装置の系統水と推定。詳細については継続して確認中。

#### <5. その他>

- H23/10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5、6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。
- H24/2/23～ 6号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- H24/3/6～ 5号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- H24/3/14～ 港湾内の海底土拡散防止を目的として、固化土(被覆材)による海底土被覆工事の本格施工に着手。
- H24/4/25～ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。

以上